

# 市政を問う

## 一般質問

6月定例会における市政に関する一般質問は、6月14日、15日に行われ、7人の議員が質問に立ちました。各議員の質問と市長を始めとする当局の答弁要旨は次のとおりです。

(質問議員が執筆し、掲載順序は質問順です)

※質問、答弁の詳細は8月20日頃から半田図書館・亀崎図書館等に配置された会議録でご覧いただけます。

また、市議会ホームページにも掲載します。

※その他、議員ごとにYouTubeへ直接アクセスできるQRコードを掲載しています。



志民ネット  
中村和也

### 外国にルーツをもつ子ども達の教育促進

**問** 外国にルーツをもつ児童生徒の就学状況は、どのようになっていますか。

**答** 一定数は、外国人学校に在籍していると思いますが、どの学校にも在籍していない児童生徒がいる可能性もあります。

**問** 外国籍の児童生徒の教育の機会を守るためにも日本人同様に在籍状況を追跡・把握できませんか。

**答** 義務教育の対象ではなく、簡単なことではありません。しかし、状況把握は必要な事であることから、関係部署とも連携し、進めていきたいと考えています。

**問** 日本語初期指導教室と日本語適応教室を設けて、さらに拠点校を設置するべきと考えますが、いかがですか。

**答** 日本語初期指導教室と日本語適応教室を設けることは、効果的・効率的と考えます。しかしながら、拠点校を設けることは保護者の送迎が必要となり、送迎できないケースが発生する課題が心配です。

ることは保護者の送迎が必要となり、送迎できないケースが発生する課題が心配です。

**問** 今更で、外国人労働者を雇用している企業や経済界への相談・協賛はされましたか。

**答** 今更で相談などはしていません。今更は、子どもに限らず多文化共生社会の実現のために企業側や各種団体とも連携していきたいと考えています。

**問** 日本語の理解が不十分な児童生徒が、早く教科の授業を受けられるようになるために、専門の外部人材を充実させるべきと考えますが、いかがですか。

**答** 今更も多くの外部人材を活用していくことで支援を充実させ、日本語指導が必要な児童生徒がより安心できる学校生活に繋げていきたいと考えています。

**問** 外国籍の子ども達も日本人同様に幸せになる権利があり、さらに一歩踏み出した支援が必要ではないですか。

**答** 課題は認識していません。日本人のみならず外国籍の子ども達も大切な未来への懸け橋です。真剣に取り組んでいきます。



自民クラブ  
加藤美幸

### 使用済み紙おむつ回収・処分へ

**問** 衛生面での安心安全と保育士・保護者の負担軽減のため、保育園等での使用済み紙おむつの処分方法を改善することへの見解を伺います。

**答** ICTの活用により保護者と保育士との情報共有などが円滑に行えるようになり、保護者の子育てへの積極的な関わりを促すことが期待できます。このことにより、園での紙おむつ処分の実施が可能と考えます。

**問** 具体的な内容や対象は、どのようなのですか。

**答** 公立園を対象とし、業者による回収を週2回行うとして、導入コストが約230万円、処分費用が年間約220万円と試算しています。今年度中に実施時期を決めます。私立園については、委託費から各園の裁量により行います。

### 若い世代がまちづくりに参画するために

**問** 子育て世代の声を反映させるための取組みは、どのようなのですか。

**答** 「子育て支援事業検討プロジェクト会議」を立ち上げ、未来を見据え真に必要な支援策を検討します。委員は公募で1名の他、子育て中の市民委員4名を関係機関から推薦していただく予定です。

**問** 若い世代の声を取り込むための広聴や市政への参画についての見解を伺います。

**答** ①幅広い世代からの意見が迅速に聴き、分析が可能なEメールでのアンケートやモニターの研究を進めています。②各種審議会委員に子育て世代や大学生に参画いただき、施策に反映していきます。

③新たな広聴手法として、市民が話し合い意見を集約し市政に活かす「市民討議会」の実施に向けた仕組み作りを公益社団法人半田青年会議所との協働で取組んでいます。今更も、広聴手法の充実に努め、若い世代はもとより、幅広い世代の市民の市政参画につなげていきます。



市政を問う

一般質問 (質問議員が執筆しています)